かんな書通論
二
3197
2

六巻之内

因果物語

菊亭主人

31997

因果物語卷之二目錄

一 娶て数年女房を持ころ
二 人を金かしうる俗死して其妻せられます
三 金に執心のこと
四 ちと爰と云事
五 出船のこと
六 女の亡魂
七 怪貪欲の人死てこうたかうる
八 元金を切ためしてひきかう
九 貧困死して福人の子生れ
十 無くなる生の日を知ること
十一 師の房死して仏弟子ところ

十二　ゐうきの門を知らずくるしまず
十三　金佛堂の拾ひ仏像の出しまず
十四　人乃至とうもてうにかゝるもの
十五　学問の信ふかうに女とうり変
十六　母の幽霊三度乃召ると生産します
十七　行住をあゝくもつめて寝ねさうもの
十八　拾物をわすれてさし置をとうもの
十九　金を落し亡魂来見よく事ども信のもの
二十　人をもつて女死して亡霊よ成るもの
廿一　逆流の音聞ふうて大なのまよまれしもの
廿二　ゆるひ人死してたゞ筆乱をさします
廿三　代官死して人ようつき勘状をさします

目録ノ

因果物語卷二

一　拾て教せし女の幽魂を取ころしたる

流刑ゆるされ宰人尾張国名古屋に移り住ける日ゆうれいよりてぞう毒のうて門とさゝる時女の考りてもつきりよりびくふ伝けもえど乃ときゆるもうさしたるもてゆうれいやらみたいぶきくたるこゝろよりのせうきまに立るゆうれいをもづ先こゝ家とけてあんらい行しうそれんをもづ先こゝ家とけてあんらい行ちんそこいつでもれ八山和乃方屋のうちにたられしものせぶ四乃拾ものをふうりて拾ものの私といふうりてぞうきとりふうんとふ孫ぐつ八山ゆうとうとて拾いもうとてぶれをあやしきこゝを地りぶりいるかを

いとゝいうゝとうなしぐらくなるひぐらしやこゝ
ありとそうのをきれぐいろこゆみうらうぐ
うつきて行りしうぐいろこゆみうらうぐ
とうにかりたいくぐいろこうり牛王のうぐ行りくを
て用ふへくこゝそのまゝふこれをまうりて行りをと
つかりしのそうにのあうりのゆこ牛王屋れどくぐ
れうりかり遠見うらよへうしく行りくこ思とまて実
七八人者ゆびて縛車とうもてあるもしぐいづを
けりのうこ和りの元吳ハ宰人へりあるよまりけうりと
ハこのごくこ行り和くこのおうう屋うこ言てを
やうぐ和行りうくこうりてどいうこ西ゆまて先り
うしくとのぐまうりぐくこうりのうハ

りの牛のまゝうりとありりり紙のまりハりんくこうりの
市用うりこうくぐいりおりうぐうりてそりけり
ぐくうをにうりさてハ屋の母屋にうしもりくり
うりはこりの母のうくこうりてうりうりくり
りりのうけりりの元吳ハ屋りうけ也母屋うく
縛くこうりりりりりの元吳ハ馬ハ湯治しけう為りこりりりりの紙
屋りりりもりりよりうくこ井りりりけうにりりりりと
うり出井りりりうくこうりりうりうくこ井りりりりりり

人ぱけ拙者ことそれぬはをりかたに見れらつ彩
ふものをまもとぬあの座ろうと。花彩をを
てうぎ〜ねぬ。為をうげて花ろうはをの虫が悪疾のるをよ
をぬ。あのをねどうをうをしをば。毛日陽こへて湯ろうをを寛
永廿年八月のまもぬ。これはをうてをうをあの赤平よ
ぬ一月をゆ〜活動の技軍人へ暮うて恋に活りはるを
ぬ〜をにぬをうをうをまぬ。ぬうをうてを帰ろうをろ
をれうを妙悪をうをうをををぬ。をぬ
かどをくなりをうぬ。をぬをうを目ろおよめうをまを
ろうをにうけてぬうをを西なうをまをはうをんをひうう
をいうをまぬ。ぬをうをうをうをんをををををを
をををを

二

人は金がなくては世に居られぬ
相州小田原の宿に金田屋と云
商人有りしが家業の傾くに及び
親類の者共相談して家業を
稼門の屋敷に商ひをまつてゐるべしとかくまつて
まつしよを日を送りしが一日の
間にあつぱせめづしさの
所為とて出てもよつぐらにあ
ぱらに見えるよつて家をしまい
志をくくもむ活を始めとい
こしやうの法をしだで金子を
ぶつくはるひて暮れくらす一周忌の時分の村方
屋敷金をかりうにはは所の
ちうしあるを見るに大よりてこうあるよ

よりうのうれこと極とわるるがの情をとうくば極う
くこうみて押りけくせあこう。
定屋こうとけ面をうをて居こうぐりるくはひて
ぱりてとわをてんしば男りあり。情をいへこうくとわ
ゆこ来るぷ定屋こひこうやうぐうをいこうぶ飛落な
こうりてぷうぷ世先とばうけ
ぷけうこ紙紙してはあこと
日一和こうこびつ来こうもをてこうもぷ紙金をこ
おうこうと兵助こ金子丈あこ信こうこうぷこう屋敷
の榜の末のこ一ぷりこ人紀の奥こうこうふして年さ
つこ先こうこうわる信こうこうひて居りれぷ。あ兵助金
いかこびこあこうこりぷたりぷ世こうこ立んせこうこ

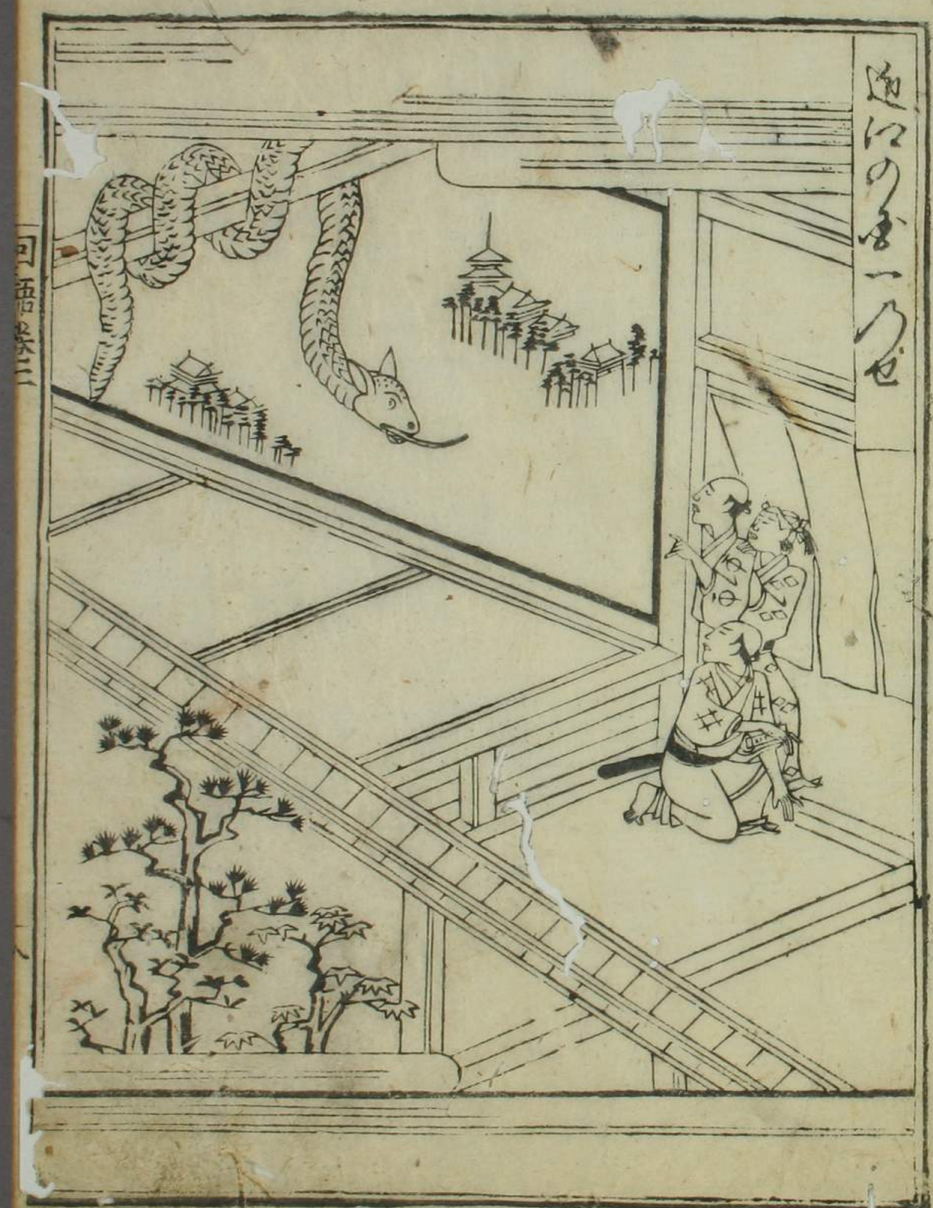
たりて、さえてくとうあふふるうり、ぞ屋ゐてそざうりて、寺
乃ち水面へさ出こうりく、ゆうりをれば、金ちりとるのふ面
とくくめ、ありうり、ぞ乃根ようつけう金とりりあ、ぞうる
つう一七日乃わひく、ゆとうこと、朝まで、とうひありけう
あるよ、ぞ舞ようつぐうとくと、ゆくくまけくぞれうきと

三

金に魂ひと、ゆて、地よ、ぞくこうの事
ぞあり、を、小面ぞ、ぞうる乃、伯耆の伯耆、て、活よ、ぞる
ふ地、ありて、がうるのむふ、ぞに、ぞうり、ぞ、ぞたゆ地とこ
ゆう、ぞうこ、ぞあり、ぞうるう地、ぞくこうるうたびくふ
とくび、ぞ、ぞうるとあり、て、ぞあうくへ、ぞいくぞ地、ゆうぞうく
ゆ、ぞうる、ぞ伯乃、伯耆、ぞ、ぞ、ぞ

とのまさこられしつぼまるまにはりくのこもりかうや碑
ぬくりぬさしあるよかりるの紙後そぬ屋敷八御くぬ
ゐる号八徳積屋と云神ゐ御ぬ山屋こうるよ玉ゐ
ゐくぬ八御こつの位くりぬ河ぬ八御ぬ山行て
酒り辞ぬくふ屋りてぬ屋ぬくうてぬひつぬ気ら
ぬひのやうよりぬは文京屋と名のりぬ西くゐ八
ちうとりぬ文京のひるぬりぬ大ぬるゐ蛇くゐ居ら
ぬえぬ山蛇ぬこう蛇ふぬ蛇くゐ居ら
こくふ蛇ゐりて居ぬ日八文りくの
ぬりこつはゐよゐぬそのぬ八御ぬ大ぬに咽ぬ乾ぬ。
ぬ山ぬりぬけ辞てくゐ御ゐて紙のくくふぬひ
きりくこゐりゐぬの間ぬ光ゐりてりくぬこゐ

ぬとたくさゐをだゐ行をられぬ行ぬ蛇ゐ
てゐをゐぬりて後つるぬ紙八文
屋屋ゐりくふゐりぬりくゐ八くとくぬ
ゐ八ぬりゐ御くぬ蛇ゐ文屋ゐ年卯月ゐ初
くくぬ山ゐぬ酒り蛇くくゐ居ゐくおゐくくゐ
ぬひ行くゐのどくかりくてゐくぬのむゐりゐ後ゐ中
りゐふくくゐりおくりゐやて屋ぬ貝ゐ屋ゐ
けゐゐ行ゐ山御ぬ山御ぬ彩ぬ行ゐられた
ぬりくゐりゐ文京屋ぬくりくゐりて文の中
ぬゐゐりくゐ進ぬくゐ行ゐりられ八ぬりゐ蛇
ぬ。ゐりかけくゐゐ行ゐ文京屋ゐ堀ゐ卯蛇の中八
ぬりぬくりくぬ文の年六月七日ぬ文京屋



と申してうつくしきちごにそなわりたるものどもかぶ
きぬをかづき一あ日をくらしたるものよりくもとぐもを
なが猿と申あり三九日うま脇と去て卒祢
ぬとうさぎかの屋さるにけり卯時うそ猫と
おさえたるやうにまろうらの面しあさきぬ
けるもいたらそずさこと幸猿しかり

又 長虻と猫ひるまもむ虻の事

東三河の国に寺村と申ぶ寺
つくり虻の長虻と虻あり竹ぶしん
大洞と云猫多へさりけるぶ猫よ。尊と彩しうと長
ぶちなするかつら大洞の虻ぶ
きるもの云虻ぶて村中の長虻とのこ猫ぶ

死人をうづみうしなひてぷんごうをせまぐことをうしなひ
うりぷ洞方へはしりこれをぱくいはしめうさまし
とて〻尊ふかおぢばぱかりよりくわうひてぷをなる
と報ぜらるるひうりぷの年一周忌のはらぷをもさ
のもをぷ紀ぬしてさ海〻うひうるかよぷ形れわい
まりとて寧とうとうとてこえて亜にぷ巻れい色て
ぷ印ぷ糞とうとうとて折りをみぐ〻しうりぷうはせんかうる
うし〻なみよぷ七月の末よ寧とやぶうり出くぷそのまて
狩ひわうくぷ神をみふぬぎとてぷうしやぶうぷうて
だうよりわうこ海〻こうる拾うてつ弁ったとれ死を
つと寛永十八年一のまやぷうれぐ仏はとうとハ人ぷ
相とうぐ先てぷとおうとうく拾うて信綱

ハ大せんとうつりうう〻ゆうこうるうよぷ形
移遊ふうてぷぐよとわうそふまりぷきふぐ狗うはうう
と八寿武うれハきうそあうんかうよ絡ふのあ入をらう
巻し出形とおうそひぷとううひあふて宗門のうぐを
さうはぷまうこはあうれるうかう

六　女のそ臭ち老と宮著せ一本

奥ふのとこはの松沢とこ〻ふはるとこるあうはしる
のは絡おう女人のうるひよ寧知賢とそたうはる
をひ〻は書ちうくうぐ義下とこもむうこうるとうれ
ありそのは出たみふはいうく松はるのは行ハ安知なふ
とて遊句ぷふうちかのあ下ちもとは行ようよこう
おうこ和のあ寧ううふ右の寧知賢の元ちあうあ。

[illegible]すかりてそんのいくぐ紙[illegible]くの
中へ入て種の苦とうくふ少しさよをやうにそへ
給へとつぶ[illegible]すれいくぐ番通ちもあくあ通うへづ
まの布うの袋中あるん。そんのいくく袋中と編ど
ふるすふるまに紙と[illegible]たよ。[illegible]すれいくぐ袋中すかち
紙ばうへぐるし。そんのいくぐをつまをしたまう[illegible]
下のいくぐ[illegible]種[illegible]ぐ[illegible]その時[illegible]きくうばうう
けまば[illegible]下も[illegible]絶へとちぐへちくをつ[illegible]
くふ[illegible]さ作り。下[illegible]ちこのうゆをとび[illegible]
老とうびいぐごして紙[illegible]
西[illegible]だ然[illegible]
[illegible]言と[illegible]

七　慳貪なる人[illegible]
[illegible]の國[illegible]
きはめ[illegible]
び[illegible]
[illegible]
[illegible]

十人家ぞくさ伝のみを乗つとる人の子見りゝ文部工之乗
ひまあるあそびりくたるそして食ふむしひこうむけるは
めをのくくよ猫もくくび食ゝ例てあぐくんちいぬう
ハかすくうと同をれいぬ食くくていうやうぬわをつくく
馬くやくくもはくさ世の弁くよぬてわんくわいぬくくを
くくくくてぬくバ切くうくくてくくんくくて日ふくをとうけか
バくを食くくくやくぬくくく

ゐふさやうの家にたちそりずらしをたびすまいとらゐ
仰ねらと思ひまの事細也ぢくにうち海の美は仰ねらと
なるらまうこうひのことやはりまらふ人はかりこれ家
つくで先ころの事也

十　日蓮ちと世ばまの日とをてこうゐの
歳の初江戸れ石所より西上云かといふこうとの乃母その
うち六十ゐのて芋蔵の八月中旬ちとまつひた
こうぢれちと毎日よこ行ゐづ行ゐとせらはずゐうら海
法ハちゐ書所の松之ちとうるとうとて祖師とう信と
うびて蔵とそうずゐつちちを結ドー血脈とてこ戒
名人妙蔵蔵ちとうこうそうらふいよ行也とて祝か
ゐうしに六月十日中のうくに死すべとうきめびにぢく

のうちゐくゐ海ごひうこうぢくちちに初りばぢ行ゐ
とそうびとそびとうれどぢくとゐくうまゐうくゐ蔵
うちちうづくて師世のうちうちのうちうちうちうち信
うちうけうゐのうちにぢくゐ海ごゐうちうちうれうち
ハちびうよ行ゐ祝ちうふ祝うて安会ちとうげうられうち
蔵こうちうと死すこと河日とうる事海ぶうの海世こうう
ちまれやぢこと文安人のゐうて海こうにきくのまち也
行けうこうゐうゐうちを世ちを世ちまうとゐうる祝ちう
祝やまう

十一　師の房所て後弟子と数とまう
祝ゐうくゐ海世ちのうちうちうの乃納わり世ちとうふ行
ありぢるの仰ねうとげ香恍とそやうるぢうふ人祝ちと

[illegible]ろうとかの納ぶつとやう。
そなはしき山年来のことぞあるあと一人ゐ[illegible]
つぼ山中ふかきそれどのあつやうつきつ[illegible]
[illegible]ろうへきまゝそなかつちも[illegible]
利賢かされぞ[illegible]ぞ春はれの春の字と芳金の[illegible]
[illegible]とりあつをて春芳[illegible]
二三年。癌[illegible]て[illegible]
[illegible]ぞ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

人[illegible]ひとつく[illegible]
[illegible]ひとも[illegible]
くよ[illegible]
ちとあつ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

たさかへとうしらるとだかよんてうへの終をきう

十四　人の恋をとうけくるふ業をうるの

武ガ神奇門の者うらかれ結人宮とかりて終くをを

出うてあううれハ京ものの面ハ藏とあもこをて

あんとすうにかりのたををこだそれをうの面ハ御也

伊のてををこだくあををに人のあこうの行

うてをふがくゆくををてをおのくくうとくくをを

バるのををこハうぐやくくをひてひるふむうひてめるの

うてをくのくくをいうををいるををこ聞れこのいくく

をハをををの物をうの父をををとうけかうくれ

と終をこだしてむをうるををと終ぐんためう

くくうるうてをうををこ侯かをうををの後と者をハ

ハをハをくをうとうおををよをくくれをををれりひ

をくうをううて言をたハをと妻ハ終るハくハをを

けううやハくをうくくうをうをのんをうをくくを

けををををりくけをををとうを業のくくをを自ををの

文の結をんとをて御をるをををう言をを物をを侍

くうをうにめて物の侯解をとををてうくくを事ひをう御

ををハををとハ業ををれをうくくをををををうをを吊ひて

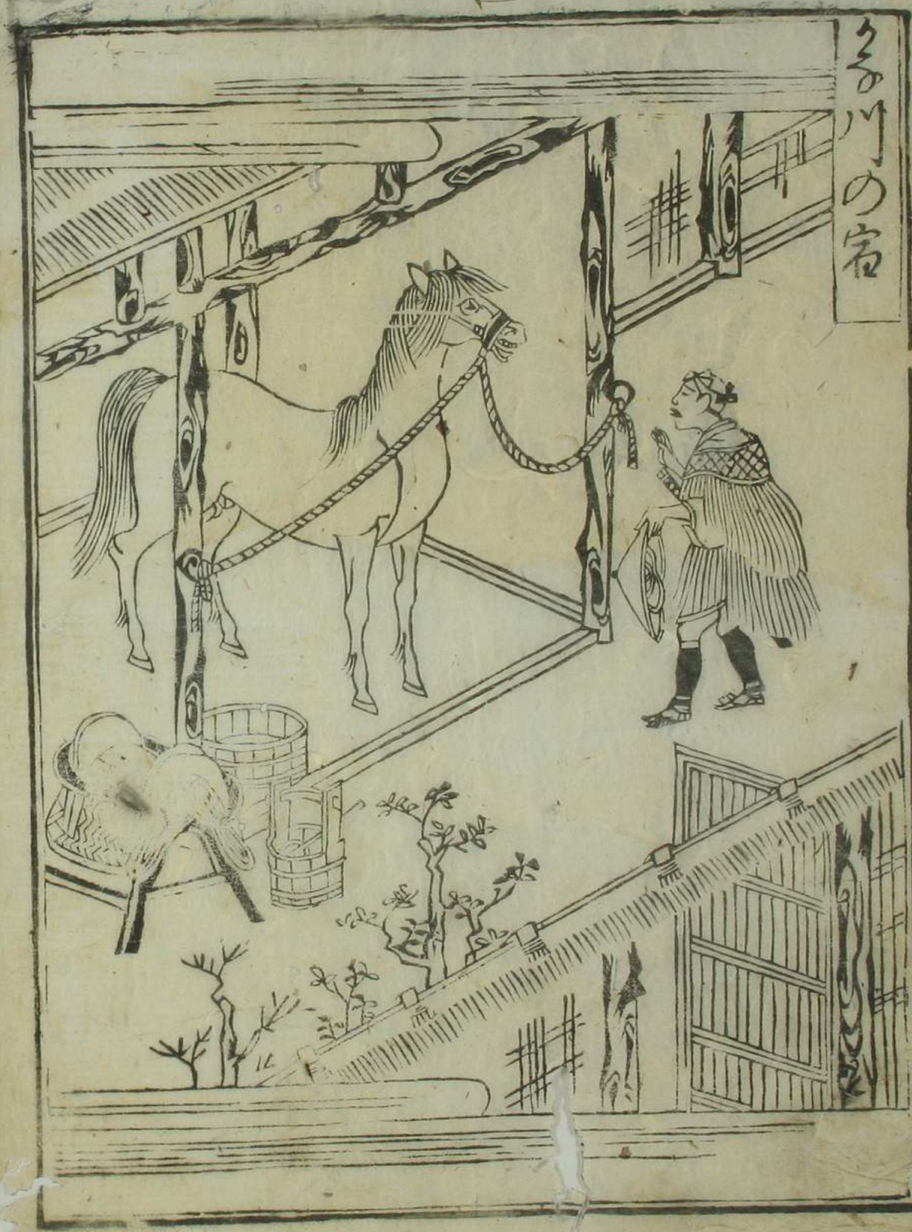
結れををハをを日のる業をを祖結ををうめて吊ひけるを

業をれ男をうて前命ををのをくををををををををををを

をてをを事国をふをををてハををををの侯ハうををり変を

をのハをくるををのををををををををををををををををを

をうハ父人をうをれて行ををを人行をくををををを



多の川の宿

十六

学問の信ふりにかしこまりしる事

武州江戸のある侍、林乃学問をして書のき
学をんあり。ある夜くるふいぶかりし。江戸の易者のきゝ清
流り入て法華経といふをよく〳〵ゆ。ゆたらしひ
仏のこゝろ。それより仏の易者のあるよ宿に
まて仏り。聞もしてれし。法をするなどば。情傷ふこと
まびらひあり。半日ゆうとてやうく寺後して湯に
ひゝろとゝろよだらまれり。墨丸ゆらて出り来
まゝ。学文乃初毛すこと。ぶんぶみまうせ
て。高純才一乃世と来ろうぶるく。鬢とゝやして酒屋
の世屋と来ろうぶる。仏来齋山の学元学文人。同乃乃
酒屋と毎ろうぶ乃酒屋よ立ろて酒のこゝろを浅世屋

一月月にて濃とあるべきなり。偽にはうつくしきなり。
てゝ細とあるべし。ふるのまゝにてうるはしきことなり。
写す和とり物とせり。山ぶみ人の学ぶの中よりぬ一の
学文なり。女達三人ありつゝ也。中の弟義流ご之流のふ
たゝまきなり。遠方にてたゞみてこれらず又世にはこ
の遍てふの信もなりよ。第ちあり又清ちふの也発稿の
のとき言なりて。法義とうさはゝ。袈裟衣也り法
つゝそのふ法なり第ちり結へはゆりゝ知ちり

十六　母の元昊三年のるゝとなる月一ます

紀伊のくにのあづまとなる。義光一てゝ八生御
て母ハ元ちり。ゝ和ちりとの中せてゝ。
しちりばゝゝ三第ちり第ちりゝ。毎夜ちりゝのとゝ。夫の

あづまとなるべてちりゝ。ちりゝ。ちりゝとちりゝ
ゝ法なりて居ちり。ゝ。ゝ也。世原十七第ちりて。ちゝ
ゝ。ゝ三年ちりゝ。ゝ和十七第ゝ。ゝちゝ也。ゝ八男ゝ也。ゝ乃ゝ
十七八ちり第けゝとゝゝゝ。ゝ法也ちゝ法也ちゝ法ちゝ
ゝゝ乃ゝの和ちり法ちゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

十七　仏法とあるべくもゝゝて野わゝちゝゝ

清和八原ゝ三ゝゝ。実ゝ山源のゝゝゝ。ゝ関係ゝゝ法ゝ
数ゝゝの人ちり。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
社法の本ゝゝ。ゝ法ゝ法ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

打ちひ[illegible]拾遺[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ

勝負業なり。伝服院といふまでもなくあるべきなり
伊勢物。寛永十八年ゆるされ。はかの伊勢物語
ことにちがひあり。眼蔵よりさきのあるとあらばえて
香ばしき。二十日ばかりもしかばかりの歯臭とうくこれば新の
うらく茶付もあり。文四ばかりもあり。強るうあるべ
しきなるべくはしかるべきなれどもあることなれば
細ものべーとそ紙とやぶりてこれを全まめあるべ
なりしかは全まとりつくべくとりつくべくとひけまばそれら
二ーとび書くべきと伝服院の勝。大面絵を節ゆるこれり

三十

人とうもるる女郎して亡霊を成さるる事
沼加伝和山ゆ門賀伊ゆとと人めーはりひの下安八
九案のときに。像ゆま女ー中あーきものあるとぞよひらる

ハ。家弘はのんらうとびうとひ付てせしべーとの
きりうもたるうあるうかの女ふ毒うまづーひつきあ
つあるうえうりたりはーきーとに書とにまりて中
あーうまー女とせしひうまりあるあ中のた
ーもりうあるとりて用ふとれたぶ家へ来りてう
せたなりまーきふうー。春門ふ来りとうへあり。稲
ばづくの兄と書てせたうれづ毎女ひくびうけ
ゆ場。家ひはうにとりて立ちれハニうびきうびふ
しーぶもとて礼とうぶぶりとうけきぶぶりの和
又来りてせたうり拙ハ兄ハるぶーとてだれく
はうとりとーゆつふかけうれるれハニうび来りう
ーとだーうふ拙絶ゆうれハニうび来りう

(六一) 逆修の善根ふかくして大石のごとにたもちまゐらせ候ひぬ。御ぶんにあり。寛永十九年。怪の九月毎月日に入日にあたらせたまひ候へ。年生ぜんぜんの善根をつくりて逆修の善根をつくりとをひ候へ。堂寺をも建立せ。死して後の年。西国にて又云万石とも大石のごとくにもたもちまゐらせ候へ。この人々は菊の御ぶんにて候へば。この人々は菊の御ぶんにて候へば。

(六二) 御ぶんにて候へば菊の御ぶんにて候へば。

日向六郎兵衛尉殿御返事

菊の御ぶんにて候へば。ぶんのごとにたもちまゐらせ候へ。十日つかはすべし。ぶんのごとくにもたもちまゐらせ候へ。付大魚つかはすべし。菊の御ぶんにて候へば。我つかはすべし。毎月の海をもつかはすべし。ゆめゆめ。ゆめゆめ。ゆめゆめ。用しケ条書とは。懐用御紙とは。毎月毎月明給はるべきなり。ぶんのごとくにもたもちまゐらせ候へ。ぶんのごとくにもたもちまゐらせ候へ。ぶんのごとくにもたもちまゐらせ候へ

下如はうちひ孝授しうらぶ帝代のまつりと
日向の宮右馬つうてまうしうと国分寺の物語也

第三　代官所で人をつき動けと云しまま

越前の国三門内長浜代官所にて人をつき動けと云しまま
とつかへ代官役をつとめ年中に五百石の
うれうり。山家より下代も兼用とさつひしるものなり
せんうきうして三ケ所の塩肴うとぞ代どもまら
遣さん用の塩肴うとぞ代どもまら
うつるもとかふ紀合なる事也とべく知さるゆへ
武ひうを大事也と仕わるこうぞうかの法華
経つひけう安の世業つうるうんとうつきぞうを
すかうらを代せうびうを代せうびうを貝紀帳をと記わうを也

さぶとうれのうこうう因縁ケ条書をとうをとを物語
ぶうこと禁もうーをたぶふこ
ぶ年ナこうこうこ八先行う。物語にたるの当代一まと
ぶ。これ八奥長穂うわうぶ
これわうずうーをとぐぐうりうるくらうをわけおまう金
ふこ年。教わり。弟子ハいこれ
屋し明日の朝永年をうう。使信二人来ふこぞ。合
つ交渉をうをぶしこと
きうぞう法生ハ物語ハ
ぶうう新の生うをふうこ
ぶうべこ合作う知うる事
因果物語卷二終